

第 82 回国民スポーツ大会・
第 27 回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会

第 6 回広報・県民運動専門委員会



第82回国民スポーツ大会・
第27回全国障害者スポーツ大会
マスコットキャラクター
長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

令和5年7月6日（木）
オンライン会議
（主会場：長野県スポーツ会館 2階会議室）

広報・県民運動専門委員会 委員名簿

(委員は順不同、敬称略)

令和5年7月6日現在

職名		機関・団体名
委員長	穴山 悌三	公立大学法人長野県立大学 グローバルマネジメント学部長
副委員長	深沢 幸栄	社会福祉法人長野県社会福祉協議会 事務局長
委員	竹之下 茂	日本放送協会長野放送局 コンテンツセンター長
〃	窪田 勝	信越放送株式会社 情報センター長
〃	西條 彰浩	株式会社長野放送 報道制作局長
〃	松岡 隆	株式会社テレビ信州 報道制作局長
〃	小林 明子	長野朝日放送株式会社 報道制作局長
〃	伊藤 徹	長野エフエム放送株式会社 編成制作部長
〃	小市 昭夫	信濃毎日新聞社 取締役編集局長
〃	清水 敬久	株式会社朝日新聞社長野総局 総局長
〃	高橋 秀明	株式会社毎日新聞社長野支局 支局長
〃	渡辺 理雄	株式会社読売新聞社長野支局 支局長
〃	原田 成樹	株式会社産業経済新聞社長野支局 支局長
〃	今村 実	株式会社中日新聞社長野支局 支局長
〃	羽田 洋子	株式会社日本経済新聞社長野支局 支局長
〃	中出 健太郎	株式会社スポーツニッポン新聞社長野支局 支局長
〃	小山 正明	株式会社日刊工業新聞社長野支局 支局長
〃	宮坂 康弘	株式会社長野日報社長野支社 支社長
〃	小坪 俊哉	一般社団法人共同通信社長野支局 支局長
〃	小島 孝則	株式会社時事通信社長野支局 支局長
〃	新保 力	長野県新聞協会 会長
〃	岩下 正志	一般社団法人長野県ケーブルテレビ協議会 事務局長
〃	小池 行範	一般社団法人日本コミュニティ放送協会信越地区協議会 副会長
〃	茅野 繁巳	公益財団法人長野県スポーツ協会 専務理事
〃	永原 龍一	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会 常務理事
〃	聲山 典生	一般社団法人長野県経営者協会 事務局長
〃	鈴木 幸一	長野県中小企業団体中央会 事務局長
〃	更級 伸彦	一般社団法人長野県商工会議所連合会 事務局長
〃	待井 政志	長野県商工会連合会 事務局長
〃	中塚 徹	長野県農業協同組合中央会総務企画部 部長
〃	中島 邦雄	一般社団法人長野県観光機構 常務理事兼パブリック事業部マネージャー
〃	中條 智子	一般社団法人長野県連合婦人会 会長
〃	宮村 泰之	公益財団法人長野県長寿社会開発センター 常務理事
〃	宮澤 俊樹	長野県小学校長会 幹事長
〃	牛越 雅紀	長野県中学校長会 幹事長
〃	廣田 昌彦	長野県高等学校長会 副会長
〃	浦野 憲一郎	長野県特別支援学校校長会 庶務幹事
〃	添谷 芳久	長野県私立中学高等学校協会 副会長
〃	高池 正之	長野市文化スポーツ振興部国スポ・全障スポ推進課 課長
〃	山本 茂	松本市文化観光部スポーツ本部スポーツ事業推進課 課長
〃	布施 秀雄	佐久穂町総合政策課 課長
〃	本島 憲	高森町総務課 課長
〃	益満 崇博	小布施町企画財政課 課長
〃	小池 貴浩	企画振興部 広報・共創推進課 課長
〃	若林 憲彦	観光部 観光誘客課 課長
〃	村松 史貴	長野県体育センター 次長

計 46 名

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会第 6 回広報・県民運動専門委員会 次第

日 時：令和 5 年 7 月 6 日（木）13：30～15：00

オンライン会議

（主会場：長野県スポーツ会館 2 階会議室）

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 報告事項

- (1) 広報・県民運動専門委員会委員の変更について
- (2) 準備委員会における決定事項について
- (3) 「第 3 回県民運動推進戦略部会」の開催結果について

4 審議事項

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会イメージソング制作
について（案）

5 閉 会

報告事項

広報・県民運動専門委員会委員の変更について

(委員は順不同、敬称略)

職名	新任者	旧任者	所属・役職等
委員	竹之下 茂	関根 保夫	日本放送協会長野放送局 コンテンツセンター長
〃	小林 明子	郡司 勝己	長野朝日放送株式会社 報道制作局長
〃	伊藤 徹	坂井 一正	長野エフエム放送株式会社 編成制作部長
〃	高橋 秀明	田倉 直彦	株式会社毎日新聞社長長野支局 支局長
〃	今村 実	田畑 皆彦	株式会社中日新聞社長長野支局 支局長
〃	羽田 洋子	塚越 慎哉	株式会社日本経済新聞社長長野支局 支局長
〃	中出 健太郎	井上 徹	株式会社スポーツニッポン新聞社長長野支局 支局長
〃	小山 正明	浅野 文重	株式会社日刊工業新聞社長長野支局 支局長
〃	小塚 俊哉	金子 大	一般社団法人共同通信社長長野支局 支局長
〃	小島 孝則	樋口 卓也	株式会社時事通信社長長野支局 支局長
〃	岩下 正志	濱 康司	一般社団法人長野県ケーブルテレビ協議会 事務局長
〃	更級 伸彦	柄澤 洋子	一般社団法人長野県商工会議所連合会 事務局長
〃	待井 政志	小野澤 三七男	長野県商工会連合会 事務局長
〃	中塚 徹	新芝 正秀	長野県農業協同組合中央会 総務企画部 部長
〃	中島 邦雄	小山 浩一	一般社団法人長野県観光機構 常務理事兼パブリック事業部マネージャー
〃	中條 智子	宮坂 ケイ子	一般社団法人長野県連合婦人会 会長
〃	宮村 泰之	—	公益財団法人長野県長寿社会開発センター 常務理事
〃	—	松下 隆志	一般財団法人長野県シニアクラブ連合会 常務理事
〃	宮澤 俊樹	片山 洋一	長野県小学校長会 幹事長
〃	牛越 雅紀	土屋 次男	長野県中学校長会 幹事長
〃	廣田 昌彦	湯本 武利	長野県高等学校長会 副会長
〃	高池 正之	駒村 克規	長野市文化スポーツ振興部国スポ・全障スポ推進課 課長
〃	山本 茂	大島 良司	松本市文化観光部スポーツ本部スポーツ事業推進課 課長
〃	布施 秀雄	渡辺 長寿	佐久穂町総合政策課 課長
〃	本島 憲	中塚 英幸	高森町総務課 課長
〃	小池 貴浩	池田 昌代	企画振興部 広報・共創推進課 課長
〃	村松 史貴	西沢 俊一	長野県体育センター 次長

準備委員会における決定事項について

会議・開催日	決定事項	所掌専門委員会					
		総務 企画	競技 運営	広報 県民	宿泊 衛生	輸送 交通	式典 会場
第 10 回常任委員会 令和 5 年 5 月 31 日 オンライン会議	第 82 回国民スポーツ大会・ 第 27 回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想	○					
	第 82 回国民スポーツ大会 種別の変更	○					
	第 82 回国民スポーツ大会 公開競技会場地市町村第 1 次選 定	○					
	第 82 回国民スポーツ大会・ 第 27 回全国障害者スポーツ大会 長野県準備委員会専門委員会規 程の改正						
第 7 回総会 令和 5 年 5 月 31 日 オンライン会議	令和 4 年度事業報告						
	令和 4 年度収支決算						
	令和 5 年度事業計画						
	令和 5 年度収支予算						
	令和 5 年度暫定収支予算（会長 専決処分）						

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会 「第 3 回県民運動推進戦略部会」の開催結果について

1 日 時

令和 5 年 5 月 15 日（木） 10:30～12:06

2 場 所

長野県スポーツ会館 1 階 会議室

3 出席者

部会員 6 名 欠席者 なし （以下、敬称略）

学校法人松商学園松本大学 名誉教授 犬飼 己紀子

（特非）長野スポーツコミュニティクラブ東北 会長 柳見沢 宏

（公財）長野県長寿社会開発センター

主任シニア活動推進コーディネーター 戸田 千登美

佐久穂町総合政策課 主査 土屋 潤

小布施町企画財政課企画交流係 主査 小林 豊実

一般社団法人長野県観光機構 C X 事業部 スタッフ 宮原 理恵

オブザーバー 2 名

D X 推進課 D X 戦略推進役 川本 圭一

デジタルインフラ整備室 主事 小山 仁志

4 委員会概要

〈報告事項〉

部会員の変更について

〈検討事項〉

県民運動アクションプログラムにおける以下のテーマについて

- (1) 各ライフステージに応じたスポーツ・運動の取組
- (2) 2050 ゼロカーボン実現に向けて環境に配慮した取組
- (3) デジタル技術を最大限活用した取組
- (4) 国スポ・全障スポ周知の取組
- (5) 一校一都道府県運動の目的と想定される取組

■ 部会員からの御意見及び事務局の対応

部会員からの御意見（要旨）	事務局の対応
【①地域や世代の多様性に応じたスポーツ・運動の環境づくりに関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもや高齢者向けの取組が多い印象を受けるが、その間の世代に対する取組がさらに充実するとよいのではないか。 様々な世代が同じ場所に集まって一つのスポーツの環境をつくるといったように、スポーツを通じ異世代間交流ができる場が増えるとよい。 年齢ごと、競技ごとにコミュニティはそれぞれあるが、それらをネットワークとしてどのようにつなげていくかという点に地域としての課題を感じる。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、県・市町村の取組例として次の点を追加しました。</p> <p>「・多様性を考慮し、地域の環境や課題に合わせた総合的なイベントの企画、開催」</p> <p>また、市町村連絡会議、専用ウェブサイト、SNS等で情報共有の場の提供を検討します。</p>
【②シニアに対するデジタル普及に関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> シニア層も昨今のデジタル化の流れを避けては通れないと感じている方が多いが、どこに聞いてよいかわからない状態のまま取り残され、孤立傾向が進むことに危機感を抱いている。 各市町村でスマホ教室の取組を行う中で、シニアの方もご自身でつながりを作り、暮らしが豊かになっているという状況もある。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、県・市町村の取組例として次の点を追加しました。</p> <p>「・シニアスマホ教室を開催し、シニアのDXを推進」</p>
【③デジタル技術を活用した取組に関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> 普通に運動するよりも仮想空間の映像を見ながら運動した方が、運動能力が高まるということを知った。そういったものに抵抗を感じる人もいるが、リスクを踏まえつつ新しい方法を進めていくというのも面白いと思う。 スポーツは一つのコミュニティだと思う。スマホ等を活用しグループを作って集まり交流していくというのが、昨今のスポーツを使ったコミュニティづくりの取組だと思う。 	<p>御意見の趣旨を踏まえ、県・市町村の取組例として次の点を追加しました。</p> <p>「・AI、AR、VR等を活用したイベントの開催、情報発信」</p> <p>「・SNS等を活用したコミュニティづくりと情報発信」</p>

■ 今後の予定

令和5年7～8月 県民運動アクションプログラム（案）について、県民運動推進戦略部会、広報・県民運動専門委員会、市町村へ意見照会（2回目）

令和5年9月 県民運動アクションプログラム（案）について、県民運動推進戦略部会、広報・県民運動専門委員会にて審議・決定

審議事項

第 82 回国民スポーツ大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会 イメージソング制作について（案）

1 制作目的

両大会を身近なものに感じてもらい、両大会への参加・協力へつなげていくための一つの手段としてイメージソングを制作し、各種広報活動等において活用する。

2 制作方針

ダンス制作や SNS での広報展開などを前提に、愛称「信州やまなみ国スポ・全障スポ」およびスローガン「行こう。それぞれの頂へ。」の趣旨を広く伝えられる、明るく爽やかに親しみやすい曲。

3 制作方法

本県と関わりのあるアーティストに作詞・作曲・歌唱を一括して依頼する。若年層への広報効果を考慮し、ボーカロイドを用いた楽曲制作を行えるアーティストも候補に含め、幅広に検討する。

※ボーカロイド…パソコンなどに入力されたメロディーと歌詞をもとに、曲に合わせた歌声を合成することができる技術。ヤマハ株式会社が開発。若年層を中心にボーカロイドを用いた楽曲が広がりを見せている。

【理由】

- ・曲のイメージを直接制作者に伝えることができ、質の高い作品が期待できる。
- ・作詞／作曲／歌唱を一括で依頼でき、一体感のあるイメージソングの制作が可能になる。
- ・公募の場合、先催県では必ずしも開催地の県民の作品に決定しているわけではなく、実態としては県民参加の色合いは薄い。一方、本県と関わりのあるアーティストに依頼した場合、県民に親しみを持ってもらいやすくなる。

4 活用例

- ・大会 PR イベントや SNS を用いた各種広報活動で使用する。
- ・ダンスや体操を複数バージョン制作し、ダンスコンテスト等で使用する。
- ・総合開・閉会式の式典プログラムで使用する。
- ・公共機関、ショッピングモール等の館内放送や BGM に使用する。
- ・合唱、吹奏楽曲用に編曲し、教育機関等で活用する。
- ・ボーカロイドを活用したイメージソング展開を行う。

5 制作スケジュール（予定）

2023 年度中	アーティスト選定に向けた準備・条件調整
2024 年 4～6 月	アーティスト選定
2024 年 7 月～	イメージソング制作着手
2025 年 3 月	イメージソング完成、広報・県民運動専門委員会で報告
2025 年 5 月	総会にてイメージソング披露

■ 部会員からの御意見及び事務局対応

- ・ 広報推進戦略部会部会員 6 名に「イメージソング制作について（素案）」を提示し意見を聴取する。

部会員からの御意見（要旨）	事務局の対応
【①イメージソングの活用方法に関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の利用目的を明確にして依頼する必要があるのでは。 ・ 作った曲に合わせて振付を加えるということではなく、「踊る曲」「ダンスする曲」を前提に制作すべきでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダンス制作等、イメージソングの活用方法を提示した上で、イメージソング制作を行いたいと思います。
【②デジタル技術やSNSを活用した制作・展開に関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等の各種メディアを活用し関心を得ることが効果的ではないか。 ・ TikTokなどのSNSでも使えるような曲のアレンジも必要ではないか。 ・ ボーカロイドを活用した制作・展開を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等を用いた広報展開を前提にイメージソング制作や編曲を行いたいと思います。 ・ 特に若年層への広報効果が見込めることから、ボーカロイドでも楽曲制作が可能なアーティストも依頼の候補に含め検討していきたいと思います。
【③様々な方に対するイメージソングの普及に関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く県民の老若男女が踊れるような簡単な振り付けや、保育園・幼稚園などで踊ってもらえるようなキャラバンやメディアタイアップが有効では。 ・ 障がいを持った方も参加できるような振り付けや体操も検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な年齢層の方や障がいを持った方にも参加いただけるよう、複数バージョンのダンス・体操の制作を予定しております。
【④制作方法に関する御意見】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作曲は専門家に依頼して、その曲に合わせた歌詞を県内の小・中・高生から公募する制作方法を提案する。 ・ 東京五輪の『パプリカ』のように、歌唱は曲を作った人がそのまま歌うのではなく、目的にあった人をお願いできるとよいのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「作詞・作曲・歌唱」をまとめて一人のアーティストにお願いすることを考えております。「作詞・作曲・歌唱」を分けて依頼した先催県では、それぞれのパートのイメージが合わず調整が難航し、イメージソング制作に多くの時間を要したという経緯があったためです。